

令和3年度 第1回遠野テレビ放送番組審議会議事録

遠野テレビ放送番組審議会

会議名称	令和3年度 第1回遠野テレビ放送番組審議会			
開催日時	令和3年8月5日（木）午前10時00分～午前11時30分			
会 場	遠野市役所とびあ庁舎 大会議室			
出席委員	会 長	菊池 崇	委 員	藤原 稔
	委 員	小笠原 晃	委 員	荻野 高見
	副会長	菅田 トシ子	委 員	千葉 孝造
	委 員	菊池 タキ	委 員	中村 孝子
	委 員	立花 和子	委 員	菊池 武彦
欠席委員	委 員	赤坂 千賀子		
	委 員	石直 亮彦		
有線テレビジョン放送施設者・放送事業者	市長 本田 敏秋 総務企画部経営管理担当部長 菊池 享			
事 務 局	情報連携推進課 課 長 佐々木 啓 福主幹 佐々木 利幸 主 任 多田 千穂			
	遠野テレビ	専務取締役	佐々木 浩章	
		報道制作担当	松田 健一	
		報道制作担当	菊池 裕	

会議の経過及び審議結果

1 開会（経営管理担当部長）

2 市長挨拶（市長）

皆さんおはようございます。

今日は8月5日、緊急事態宣言が首都圏を中心に発出され、コロナが依然として猛威を振るっているような状況であります。一方、開催が危ぶまれましたオリンピックも多くの若きアスリート達が、必死に練習してきた成果を晴れ晴れしくテレビを通じて国民の皆様を示しているという状況の中で、この二つをどのように受け入れたらいいのかという事については、多くの方が悩んでいるのではないかなと思っていますところでは。

しかし、これをどうにかして皆の力で乗り越えなければならないことは当然であります。遠野市も様々な形でコロナ対策に取り組んでいるわけではあります。幸い大きなクラスター状況の患者は発生していないというところに、何とか市民の皆様の協力をいただきながらコロナと向き合っているような状況です。

そういった中で、先般は松崎の野球少年団クラブが36年ぶりで優勝したということで、優勝旗を持ち帰ってまいりました。また、遠野中学校のサッカー部が、青森山田と戦ったのですが、残念ながらあまりにも違いがありすぎたという報告を受けました。

しかし、3回戦の中におきまして、全国大会にコマを進めたというそのようなニュースが飛び込んできております。子供達が懸命に頑張っているという姿が、コロナ渦にあっても夢と希望を見いだすことができるのではないかなと思っていますので、皆様には遠野テレビを通じて多くのそのような活躍の様子が、市民の皆様へ情報発信されているということ踏まえながら、コロナを何としても乗り

越えなければならないのではないかなと思っていますので、協力と御理解をいただきますようお願いいたします。

正直、34、35度という中でマスクの着用は、本当に辛いことではありますが、やはりここは守らなければならないのではないかと考えておりますので、皆さんがこのようにマスクを着用していただき、このような広い会場をとりながら、密接なり密集なり密閉なりを避けるという三密を避けながら、コロナと向き合うということに進めているところですので、御理解願います。

さて、今日は令和3年度の第1回の審議会であります。菊池会長さんほか審議会委員の皆さんにこのように集まっていただきました。これから審査と審議をいただくわけですが、放送番組審議会の皆様の忌憚のないご意見をいただきながらしっかりとそれに向き合いながら正確でかつ客観的でそして、市民の皆様に元気と勇気を与えるような、そのような情報を常に発信し続けなければならないと思っています。よろしくご審議いただければと思います。

それから、その他事項になりますが、今工事をすすめているFTTH化の工事状況、これはまさに、開局20周年という節目の年であります。20年たちました。あっという間です。遠野テレビも二十歳になりました。まさに、第2ステージに入らなければなりません。その第2ステージという節目の年に、国から全面的に応援をいただき、小友と宮守は既に進んでいるわけですが、それ以外の全地域を光化というこの時代の流れに沿うものといたしまして、30億を超える事業が今スタートしています。

これも、ある職員からこのように言われました。「市長神風が吹きましたね」と言われましたが、本当に神風が吹いたような形で国の全面的な支援を頂きまして、ほとんど市の財源の持ち出しをせず国の事業、あるいは過疎債を持ち出すような事業として遠野テレビの第2ステージのインフラ整備をすることが今進んでいます。そのタイミングを迎えまして、会社と市とでしっかり連携をとりながら遠野テレビの第2ステージをどう創るかという中で、経営改革ビジョン、経営改革指針といったものをまとめ、議会の方にも説明をしながらこの工事と合わせながら、ハード・ソフト、ソフトの会社の経営というものをどのように次に繋げていくかということについて、検討しているところですので、会長さんの御了解を受けながら審議を終えたあと情報提供等も行いたいと考えているところですから、よろしくお願いを申し上げまして冒頭の挨拶にかえさせていただきます。

よろしくどうぞお願い致します。

課長：それでは、以降の進行につきましては、遠野市ケーブルテレビジョン放送条例第33条第4項の規定に基づき、会長が会議の議長になることになっておりますので、会長、よろしくお願い致します。

会長：皆さん、この暑い中第1回遠野テレビ放送番組審議会お集りいただきありがとうございます。遠野テレビが20周年を迎えるということで、審議会の委員の皆さんにも、遠野テレビの番組を審議していただくという明かりの基で、非常に重要なポジションであると考えております。遠野テレビ、これから情報ツールとして、例えば小中学校のGIGA教育ということにおきましても、システムツールとして非常に重要な役割を担っています。番組も日々のニュースだったり、情報を提供してくれるということで、先ほど市長の話にもありましたように、松崎スポーツ少年団あるいはサッカーの東北大会、こちらの方も市民に分かりやすく、つたなく提供されているということでございます。本日は遠野テレビ放送番組審議会ということで、皆様の御忌憚のない意見をよろしくお願い致します。

3 会議成立の報告

会長：それでは会議成立の報告について事務局から報告願います。

課長：本日の欠席は赤坂委員、石直委員の2名です。12名のうち10名が出席であり、「委員の過半数以上」を超えていることから、遠野市ケーブルテレビジョン放送施設条例第34条第2項の規定に基づきまして、会議が成立することをご報告します。

4 報告（佐々木副主幹）

資料の内容を一括して説明。

- (1) 遠野テレビ自主放送番組の放送実績について
- (2) その他報告事項

会長：質問等ありましたら挙手の上お願いします。

藤原委員：8ページのエの加入状況で、インターネットが宮守エリアで36件減となっているが主な理由というのはありますか。

佐々木専務：宮守町のマイナスの主な要因につきましては、これは自然減であります。空き家ですとか、休止されていた世帯の方々が解約をするということになった件数ということでございます。こちらは、基本的には自然減ということになります。

会長：こうやってみると、全体的には増えているようですね。

5 審議（説明：佐々木専務）

- (1) 遠野テレビ自主制作番組について（試写）

※リニューアルした遠野タイムのコンセプト等について説明。

会長：皆様にはお一人ずつ御意見を伺えればと思います。開局20周年ということもありますのでその辺もし何かありましたら、お願いします。

立花委員：ウィークリーダイジェストの千葉奈々ちゃんとの出会いが昔ありましたので、ここからなんだなぁと懐かしいと思って見ていました。懐かしいと同時に映像がすごく良くなったなと思いましたし、20周年ということでリニューアルしたようで全体的に分かりやすくスッキリした感じ。字が大きくて見やすく良いです。パソコンで打った字は、小さくて見えないことが多いのですが、とてもいいなと思いました。とてもスッキリして良いです。

藤原委員：指定管理制度が始まった年になったのだなと感じました。各地区センターの様子が分かりました。特に達曽部地区センターの所長が私の知り合いなので、関心を持ってみました。今年は節目の年になったのだなと感じました。

荻野委員：特に話をするのではないような気がするのですが、ただ最近感じていることは、確かに見やすく分かりやすくなったと感じました。

千葉委員：特に申し上げることはないのですが、一つだけ。時間があればの話だったので、小さな拠点づくり。これの映像が流れました。遠野市民センターとなっているのですが、各地連協において地連協便りだとか広報誌を出していると思うのですが、それで地域の人達は誰が所長になって誰が職員になったか分かると思うのですけれども、他の地区の人達が分からないと。先ほど、辞令交付式が出ましたが、その後、各地区センターの名簿の一覧とかを出しても良かったのかなと感じました。そうすれば、他の地区センターにこういう人がいるのだなと分かるのでそれが必要だったのかなと思いました。あとは特にございません。

中村委員：リニューアルということで、青と水色。とてもスッキリして涼しい感じがしますね。そして、小さな拠点づくり。やはり自分が住んでいる地域に、特にとても興味を持って見てしまいます。新型コロナウイルスに関し

ても、今日は何人出たとか、岩手県に関して毎日一喜一憂して見ております。そして、中部保健所管内、あれはどこの地区が入っているのでしょうかと見ております。開局 20 周年記念ということで、私個人的に 20 年前は遠野テレビを見ていなかったのですよね。退職して自分の自由な時間ができて、今はとても楽しみにしています。大出小学校の二人の入学。すごくいいなと思って見ていました。これからも、映していただければ懐かしむことができると思います。

菊池武彦委員：全体的に綺麗だなと。また新しい遠野テレビが始まるのだなという感じが、最初のインパクトのある映像だなと感じました。それから、4 月から新しい地域づくりがスタートしたという、話題としては遠野テレビ 20 周年と重なり合致していいのかなと思っていました。そして、どうしてもこの時期は新採用職員とかの辞令交付式とか色々重なりますけれども、どうしてもこの辺は重いのかなと。どうしても時間的に費やされるのかなと。どうしても避けられないのかなと感じました。遠野テレビ、こういう感じでスタートしたということが分かりやすかったですし、新鮮でした。キャスターの松田さんが今も変わらず、今まで頑張っていたのだなと本当に感謝したいと思います。コロナ情報についてですが、毎日気になる情報が、民間テレビもやっているのですけれども、非常に分かりやすくてこまめに出して頂いていると思います。今気になるニュースをきめ細かく出して頂いていて非常に助かります。映像の部分ですが、市の広報誌と遠野テレビと使い分けているのかなと感じました。市の広報誌に誰に辞令が出ましたと文字で載っていますよね。遠野テレビには動画でお知らせ的な感じで分けて情報を流しているのかなと感じました。いずれ、引き続きコロナの情報をこれまで以上にお知らせいただければなと思います。

菊池タキ委員：20 年前の映像を見させていただきましたが、その子が今どのようになっているのかなと感じましたので、その後も取り入れてもらえればいいのかと感じました。リニューアルについては垢ぬけてきているなと感じますし、お客様にも是非伝えてほしいと言われましたが、毎日遠野タイムを見るのが楽しみだという事で、みんな期待しているのだなと感じました。私の意見ではありませんが、最後の字幕に遠野タイムって黒で出ますけれども、黒字で出るのがイメージダウンだということで色を変えてほしいと視聴者から言われました。見方によっては黒のバックに黒の字で表示されるのがイメージは暗くなるのかなと思いました。

小笠原委員：20 年でリニューアルということで、まずは入りの音楽がすごく軽快でいいなと思いました。スタジオの背景の説明もあった良かったと思いました。指定管理を取り上げて新体制が始まったということを放送した事も、とても良かったと思います。市の辞令交付はなんとなく分かるのですが、社協まで必要だったのかなとちょっと思いました。20 年前の大出の映像ですけど、すごく懐かしい感じがするので、またアーカイブは時々やってもらえればと思います。あと、何人かに言われたのですけれども、CMの時の音量が高いような気がすると言われました。今日は感じなかったのですが、前にそういう事があるのかなと。いずれみんな楽しみに見えていますので、これからもよろしく願います。

菅田委員：小さな拠点づくりの各地区がこれから変わっていくと思うので、今回は遠野と達曽部だったので、他の地区の地域づくりの様子を知りたいなと思いました。辞令交付式ですけど社協の辞令交付式で、対象者の人がまるごと地域相談員になったのですよね、全然知らなくて社協の職員だと思っていましたので、組織の中身が分かって勉強になりました。新型コロナの方は、関心があるので見えていますけれども、孫が中学生で中総体の観戦ができなくて、ダイジェストで放送してもらって良かったなと思いました。

会長：ありがとうございます。それぞれ意見を伺いました。番組の中身だったり、見やすさ分かりやすさだったり。見やすさ分かりやすさというところに関しては、非常に分かりやすい、見やすいという意見が多かったですね。そういった中で、タキさんが言われたようにイメージに係るような話について、その辺の意見については吸い上げていただきたいと思いました。番組の内容に関わる部分ということで、地域づくりについては、自分の地域だけではなくて他の地域も気になっているのだなと分かりました。たまたま遠野テレビを見て興味が湧いたということで、遠野テレビの情報発信の力というものをプラスに考えたいと思います。コロナに関しても、非常に気になって注目しているところで、毎日流されていると思いますけれども、その辺に関しても正確な情報ということが大切なのかと思います。他にも、意見が出ていましたけれども、ここはこうしていきたいという事がありましたらお聞きしたいと思います。

情報連携推進課長：貴重な御意見たくさん頂きましてありがとうございます。字が見やすくなったとか背景が良くなったとか改良されて好評な点が良かったなと思いますし、エンディングの色の部分等については、遠野テレビさんと更に改良できる点については見直してまいりたいと思っております。また、小さな拠点について遠野テレビを活用して8区の情報を共有するという点については、重要な件かなと思いますので、担当課である市民協働課と情報を共有しまして、どういった形で取り組めるかという協議をしていきたいと思っております。また、コロナ感染対策についても、引き続き丁寧な情報提供に努めていきたいと思っております。

会長：ありがとうございます。他に、菅田委員から中総体ダイジェストのことについて良かったという意見が出ておりました。私からも一つ意見がありましたので、せっかくなので意見を言いたいと思います。今オリンピックをやっているさなかですが、取材もそうですが、プレーだけではなく、熱い今まで練習してきた魂みたいなものが画面から伝わってくるのですよ。それが、残念ながら中総体ダイジェストには見られない。せっかく、ダイジェストとして放送していただければいいのでしたら、その辺のところも留意して番組づくりの構成をしていただけたら良かったのではないかという私の意見です。よろしくお願ひしたいなと思っております。

佐々木専務：貴重な御意見ありがとうございます。今のダイジェストについてお話をさせていただきたいと思っております。遠野テレビとして、前回の番組審議会ですごく非常に取り組みを評価されたことと、期待されることがありましたので、今年度も行うこととなりました。最大の目的は、やはりコロナの関係で子供たちが頑張っている姿を親御さんが会場で見ることができないということがありましたので、そちらを皆さんにお届けしたいということで遠野テレビとして取り組んだ背景がございます。実際、いただいたご意見についても、もちろんそう撮ればいいのですが、同時期に行われる大会ということもありまして、実際に撮影に行くカメラマンが一人ということがあります。その一人が試合のほとんどを撮って、なるべくいいシーンを撮ろうと、それらストーリーを全面的にダイジェストにおさめられればいいのですけれども、どうしても来られない親御さんがいらっしゃる中で、なるべく多くの生徒さんが平等に活躍している姿をとらえて、会場に来られない親御さん達も、子供達に対する思いが伝わればということをお優先的にやっておりました。ストーリーがしっかりくみ取られればなお良いのでしようけれども、どうしても子供達の気持ちを多くの方々に見てもらうためには、平等性ということもあって、出すことで条件としてやっておりました。今の会長の御意見を踏まえながら当社としても今後どのような取り組みができるのかということを検証して前向きに取り組んで参りたいと思ひ

ます。

会 長：ありがとうございます。そういう状況は重々承知してそういう事なのだろうなどは思っておりましたが、その中でも何かできることがありましたらやっていただければと思います。他に何か付け足して皆様から意見がありましたらいただければと思います。

(2) その他

会 長：事務局から何かありますか？

事務局：なし。

6 その他

資料の内容を一括して説明。

(1) F T T H整備工事の進捗状況について

(2) 遠野テレビ経営改革プランについて

会 長：ただいまの説明について、皆様からご質問等ございますでしょうか。

立花委員：私も詳しくないのですが、主婦として料金についてですが、10Gまで使っても、お金がかかりますので、その辺もやはり年金暮らしのお年寄りが多いので、どこまで自分で満足できるのかなと思った時に、やはり料金が安い方に行くと思うのです。お金の方も、私たちが便利に見られるような、あまり高くないように主婦としてお願いでございます。

会 長：利便性があって便利で、リーズナブルなという意見でした。

会 長：他にご意見は無いでしょうか。今の情報化社会を乗り越えて、さらにその先の未来という事で、ソサエティ 5.0 という言葉が出てありますけれども、今も普通にネットとかあって当たり前、その先のより良い生活をするAIという言葉を使ってやれば自然にできる世の中が来るということが言われています。そのちょうど境目という事で、遠野テレビもケーブルもこの1年で急激に変えて更に、世帯数がなかなかテレビに入ってこないインターネットを入れてもらうために、より大手とも勝負できる、スピードでも勝負できるようなところまできているということです。非常に熱意ある説明でございましたので、近い未来を楽しみにしております。ご質問なければ、市長から一言いただければと思います。

市 長：ただいまF T T Hの状況、遠野テレビの経営改革についても委員の皆様にご説明申し上げました。繰り返しになりましたけれども、時代はまさに第2ステージを迎えております。この20年という歩みを考えれば、人口も遠野市は2万5千人をきっております。まさに少子高齢化という時代の中で、もう一方においては情報化という急速な進化という更には高速道路のネットワークというものが東日本大震災を契機に一気に整備され、様々なネットワークが、遠野を取り巻く環境が大きく変わってきております。そこにどう立ち向かうかということにつきましても、しっかり現状を裏付けしながら、あるべき望ましい姿という所に少しでも近づかなければならないのではないかなと思っております。私も遠野テレビの社長という職を市長という立場の中で、20年間勤めてまいりましたけれども、様々な技術革新、あるいは情報化という所の時代の流れ、それにどう立ち向かっていけばいいのかという事が気になっておりました。先ほど冒頭にも申し上げましたとおり、神風が吹いたというような言葉で申し上げましたけれども、F T T H化工事、31億円という工事。先ほど説明がありましたとおり、まさに時代の流れが、遠野テレビの第2ステージを作ってくれるという事に、この遠野という小さなネ

ットワークといったものを、より確実なものにしながら、まさに市民一丸となって情報を共有し、様々な市政課題に立ち向かっていかなければなりません。情報を共有しというところでは、まさに遠野テレビのネットワークであります。放送、ニュースを通じて様々な出来事、更にはネットを通じて、文字通り色々な情報に対応していくわけでありますから、遠野テレビの通信ネットと、放送というものの、ネットワークは極めて大事なものではないかなと思っているところですので、皆様のご理解とご支援をいただけるように、私の立場からも改めてお願い申し上げたい次第でございます。第2ステージというのは、そのような形で進むのが第2ステージではないのかなと思っております。安藤先生はこう言いました、「過去を学び、今を知り、そして未来に疑問を」という形で、こども本の森2億2千万を建ててくれました。そして遠野に寄付をしてくれました。まさに遠野には心の世界がある。そこで、しっかりこども本の森を育ててほしいというそのような形で、遠野に志を寄せてくれたのです。この、心の世界があるというこの言葉を私は市民一丸となって大事にしていかなければならないのではと思っておりますので、遠野テレビにもまさに心の世界を持ちながら市民と繋がるという事になるかと思っておりますので、審議会委員の皆様のもさにこれからも変わらぬご指導とご教授をいただきますようお願い申し上げます。よろしくお願い致します。

会 長：ありがとうございました。それでは、ちょうどいい時間となりましたので本日の審議は終了とさせていただきます。長い時間ありがとうございました。

7 閉会（経営管理担当部長）